

令和5年3月23日

西部農林水産振興センター大田農業部

標 題 地元の農業を知ろう！～大田市アスパラガス・畜産～ in 邇摩高校

(ダイジェスト)

邇摩高校農業系列2年生の生徒25名を対象に、大田市の主要品目であるアスパラガス、畜産をピックアップした授業、現地視察を開催しました。生徒たちには、今回の授業、現地視察から地元農業への知識・理解を深め、今後の調査・研究活動に活かしてほしいと思います。

大田市の農業への理解を深めてもらうことを目的として、島根県立邇摩高等学校農業系列2年生を対象に、令和5年3月10日に出前授業、22日に現地視察を開催しました。

3月10日の授業では、大田市の農業の概要について説明後、市の主要品目であるアスパラガス、畜産の授業を行いました。

JA しまね石見銀山地区本部からは、大田市で取り組むアスパラガス産地形成の取組について説明があり、1億円産地を目指すために、高畝栽培の導入、共同選果場の新設、販路拡大、ブランド化といった取組を行っていることを学びました。また、アスパラガスの規格分けをグループごとに行い、曲がり具合や穂先の広がりを見ながら、秀品と優品に分けました。

大田農業部からは肉用牛・酪農について牛の品種や繁殖サイクルなど基礎的な内容の授業を行いました。エサの価格高騰、販売価格の低迷など畜産現場は厳しい状況にあることを伝え、畜産物の消費拡大への協力も呼びかけました。実習ではバター作りを体験し、教員が焼いたパンにつけて試食を行いました。生徒達は普段、畜産について学ぶ機会がないことから、畜産に興味を持ってもらういい機会になったと思います。

3月22日には、授業内容を踏まえ、有限会社中山農場、アスパラガス選果場、アスパラガスほ場に現地視察に行きました。座学のみでなく、実際に現場を見て、生産者の声を聞くことで新たな発見があったようです。生徒達からは、「頭数が多く管理が大変そうだと思っていたが、哺乳ロボットやICTを活用した個体管理技術があることを知った」「アスパラガスの選別を機械が瞬時に行っている様子に驚いた」「高畝栽培だと、管理が楽であることが実感できた」などの声が聞かれました。

邇摩高校では3年時に「課題研究」という授業があり、生徒達自らテーマを設定し、調査・研究活動を行います。今回の授業を通して、地元農業に興味をもち、テーマ選定の参考にしてもらいたいと考えています。農業部としては、今後も地元農業への理解を深める授業を実施し、将来の担い手確保につなげていきます。

